

# じっきょう 家庭科資料

(通巻 59号)

## みんなで家庭科を

No. 44

### 巻頭

高校生のための  
「親になる準備教育」へのとりくみ

### もくじ／

高校生のための「親になる準備教育」へのとりくみ	1
健康機能食品と健康強調標示について	6
布ぞうりは自分で作れます！	10

## 高校生のための「親になる準備教育」 へのとりくみ

### 「グループ育てる」

#### はじめに

2009年11月5日から12月24日にかけて行った、東京都立稔ヶ丘高等学校の「福祉活動」の授業について報告します。これは、児童館と市民の自主団体「グループ育てる」が協力して行った、高校生に対する「親になる準備教育」としての「保育ボランティア講座」です。

#### 1. 実施にいたるきっかけ

2008年の夏ごろ、中野区立武蔵台児童館館長の島田聖子さんから提案がありました。2009年度の稔ヶ丘高等学校の「福祉活動」の授業について、石井麻恵先生から相談を受けたので、一緒に高等学校向けに新しいプログラムを作って実施したらどうかということでした。「グループ育てる」は、児童館から場所とネットワーク力の協力を得て、中学生・

高校生に対する「親になる準備教育」を行っている団体です。高等学校の授業は経験も無く、冒険かとも思いましたが、武蔵台児童館が全面的に協力してくれるということなので実施することにしました。

#### 2. 「グループ育てる」のなりたち

2004年に中野区は、家庭教育支援総合推進事業(文部科学省委託事業)としてコミュニティー・カウンセリング・センター(2008年度よりNPO法人/三沢直子理事長)に依頼して「ベビーシッター・ファシリテーター養成講座」を行いました。同センターがカナダのベビーシッター養成講座を日本の現状に合うように作り直した、若者を対象とした「保育ボランティア養成講座」のファシリテーターを養成する講座です。近年、乳幼児と接した経験がないまま子どもを産み育てる親が増え、その多くが育児不安を抱えながら孤軍奮闘の子育てをしている現状

があります。若者に対して「保育ボランティア養成講座」を通して親になる準備の教育をし、親になった時に感じる不安感を軽減し、結果として乳幼児及び児童虐待に至るケースを減少させる効果も期待できるものとして行う講座です。

その講座を受講した者のうち、中野区の児童館で活動しようと集まった仲間が自主団体「グループ育てる」を作りました。2006年に初めて講座を実施し、現在も自分たちでプログラムの組み立てを研究しながら助成金等を使い、児童館の協力を得ながら中学生・高校生を対象にボランティア講座を行っています。

### 3. 「グループ育てる」が行っている通常のプログラム

「グループ育てる」が中野区の児童館で行っている通常のプログラムを紹介しましょう。

概要は、まず中学生・高校生を15～30人募集します。概ね4日間の講座を児童館で行うとともに、保育園での実習を1～3日間行うというものです。児童館には場所の提供と来館する中学生・高校生への呼びかけの他、持っているネットワークを活用して学校への受講生募集依頼、実習保育園の確保と依頼、講師の確保と依頼、児童館を利用している乳幼児親子への協力依頼などを行っています。

講座では、乳幼児の発達、あそび、お世話の仕方、安全などを学びます。そのなかで「発達」と「安全」の科目については、専門家から話を聞くことを基本にしています。ファシリテーターとともにワークショップ形式で楽しく学ぶことと合わせて、基本的なことは専門家からしっかりと学ばせることも大切と考えるからです。子どもたちは、保育士や看護師、児童指導(児童厚生員)といった実践的な専門家からの話を真剣に興味深く聞き、印象に残るものになるようです。

プログラムの中でも特に大事にしているのが、「名前」をめぐる部分です。あたりまえですが名前は個々人に固有のものです。自分も生まれてきたときにたった一つの、自分だけのために考えられた名前をつけてもらったことを確認させます。そのことから、自尊感情を高めます。自分が名前を持っているということから、たとえ現在の境遇が辛いものであっても、生まれてきた時は愛されて生まれてきたのだということに想いを馳せてもらうことができるのです。そしてお世話の実習に使う赤ちゃん人形

に名前をつけることで、赤ちゃんに対する温かい気持ちを持ってもらいます。実際、2～4人に一体の人形に「親」として名づけをさせると、ただの人形であっても「うちの子のほうが可愛い」などと言いつつ出すので面白いです。

この名前について考える部分は、一見発達や保育の学習にはあまり関係がなく、時間がない場合はカットしてしまっても良いのではないかと思えるかもしれませんが、ここに時間をかけ、自分の名前や友達の名前のエピソードを聞いたり、自分たちで赤ちゃんに名づけをするシミュレーションをすると、「命をいとおしみ、育む」ということについて自然に考えさせることができるのです。いのちの大切さ、いのちは固有のものでかけがえがないということを理解するのに大変大きな効果があるので、「グループ育てる」が大事にしているポイントです。



今回は高等学校の授業時間に合わせてぶつ切りのプログラムになったことで、通常のプログラムとは違うものにならざるを得なかったのですが、無理を言ってこの部分だけは2時限つづきの長い授業時間にさせていただきました。

これらの講座の後、児童館で乳幼児親子とふれあったり、街をベビーカーで歩くなどの実習をします。加えて夏休みなどを使って保育園に実習にも行きます。



このプログラムは、中学生・高校生が自分たちで考えたり、実際に体験して学ぶことで、じっくりと学ばせる効果が期待できます。また保育園実習は中学校の職場体験などでも行いますが、このプログラムで実習に行くと事前にじっくり学んだ後に行うことから、子どもへの視点や保育士の子どもに対する言葉かけへの理解などが職場体験とは違ったという声を、参加した生徒や実習先から聞くことが多いのです。

#### 4. 都立稔ヶ丘高等学校で行ったプログラムの紹介

授業8コマを使い、6回の講座として行いました。すべての回で「グループ育てる」が授業をすすめていただきました。

##### 1回目：「赤ちゃんのお世話」（2時限続き）



6回にわたる講座を普通の学校の授業とは少し違った形で行っていくので、スタッフの紹介を丁寧に行い、そこからつなげて「名前」についての項に移っていきました。

まずスタッフが自分の名前にまつわるエピソードを順番に話します。その後、生徒たちに自分の名前の由来を語ってもらい、それぞれに固有のドラマがあることを感じる時間を持ちました。

その後、抱き方、オムツ換えなどの実習に移ります。まず実習に使う赤ちゃん人形を各グループに渡

しました。この人形は保健所などで両親学級に使う、本物の赤ちゃんにとっても近いものです。生徒たちは緊張して恐る恐る抱き取って、グループの席に戻りました。実習は人形に名前を付けることから始まります。生徒たちが人形（赤ちゃん）に優しい気持ちを持てる雰囲気になってから、あらためてお世話の仕方の実習に入りました。

##### 2回目：「発達」



看護師から、子どもの発達について写真を見せながら説明を受けます。

##### 3回目：「安全」



元保育園長から、実践にもとづきわかりやすく子どもの安全を守ることについて話を聞きました。

##### 4回目：「チャイルドビジョン体験」

大人とは違う、子どもの視野を実際に体験することから、子どもとの接し方について考えました。

##### 5回目：「実地体験」（2時限続き）

2時限という限られた時間ではありましたが、学校から出て保育園、児童館、学童クラブへ出かけ、生徒にとって貴重な経験ができたようでした。後日またあらためてボランティアに行きたいという意欲も生まれていました。



6回目：「まとめ」

6回の講座について丁寧にふりかえりました。

5. 授業を行った効果

毎回、授業の最後に「ふりかえりシート」という、その回の感想・印象に残ったことを生徒に書かせました。そこに生徒のこころの変化が現れてきました。

「子どもは大っきらいだったけれど、実際に会ってみたらかわいくて（実習に）行って良かった。」

「子どもを育てるのは大変だということがわかったが、自分も子どもを持ちたくなった。」

「子どもの成長はすごく早いから、その過程が見れる親は幸せだと思った。」

「子どもはすぐげがをしてしまうとわかったので、これからはやさしく接したい。」

このような感想を読むと、この講座をやって良かったと思います。

通常のプログラムでは希望する生徒、つまりある程度子どもや保育に興味を持った生徒だけが参加します。そのため、保育のボランティアになるための講座と銘打っていても、本来の目的である「親になる準備教育」としての効果も高いことが期待できます。しかし今回のプログラムは、学校の授業だから仕方なく受講した生徒もいたと思われます。その中には、子どもに興味がなかったり嫌いなまま、また親として適切な心構えや知識のないままになんとなく親になってしまう者がいたかもしれないのです。それを考えると、不幸な子どもや親をつくってしまう可能性がわずかかもしれないが低くなったのではないかと考えられます。虐待予備軍であったものを変えられたかもしれず、その意味で重要なとりくみであったと言えます。

6. 市民の自主団体が児童館と高等学校と連携するメリット

高等学校にとって市民との連携は増えていると思いますが、児童館と連携することは今まであまり考えなかったことであったかと思います。児童館の側も子どものことを小学生を中心として考えてきた歴史から保育園・幼稚園・中学校とは連携してきたようですが、高等学校との連携についてはあまり聞きませんでした。しかし今、子どもを取り巻く状況は従来とは変化しています。子どもの育成や支援を行うには、直接子どもとだけ関わっていくのでは足りなくなっています。親や、それを取り巻く大人への支援が、子どもを救うためには必ず必要になってきました。児童館のとりくみも、大人を対象としたものが多くなっているようです。また、大人と中学生以下の子どもをつなぐ年代の高校生にも目を向けていると聞きます。講座そのものだけでなく、この講座をきっかけに高校生が来館し若者と子どものふれあいが増え、地域の日常のなかで異年齢のふれあいを創出するという児童館の重要な仕事への効果も期待できます。そのような状況の中で、「グループ育てる」のような市民団体が児童館と組んで若者に対して

「親になる準備教育」をすすめることは、これからますます重要になってくるのではないのでしょうか。

### 7. まとめ

児童館は乳幼児親子の居場所でもあるので、高校生がいつでも親子とふれあうことができます。18歳までの青少年を対象とした施設でもあるので、高校生が実習したり他の年代とふれあうのための仕掛けとして工夫されたプログラムを用意してもらうこともできます。また日常的に保育園等との連携を持っているため、実習先として紹介してもらうことができます。さらに高校生がいつ訪れても相談に乗ることができる場所でもあります。これらのことから、市民団体だけではできない、より良いプログ

ラムを用意することができるので「グループ育てる」は児童館と連携して事業を行っています。



#### DVD 映像セレクション

### 家庭基礎・家庭総合

DVD 全セット3巻 (各巻約60分)

3巻セット価格  
47,250円

各巻価格  
15,750円  
(税込)



※「指導資料」としてご用意しました。

- ◎幅広い家庭科の学習内容において、「映像」という媒体を通して学習効果を高めただけできるよう、編修しました。
- ◎高校生に身近に感じてもらえるよう、地域や外国の事例、出演者の生の声などをNHKの豊富な映像から取り入れました。
- ◎1項目4～5分程度としました。授業の導入やまとめ、学習のテーマの確認にご利用できます。

**第1巻「人とかかわって生きる」(17項目)**

**第2巻「生活をつくる」(15項目)**

**第3巻「消費者として生きる／キャリアプラン」(12項目)**

●対応教科書 043 新家庭基礎／044 新家庭基礎21／034 新家庭総合／035 新家庭総合21